

高等学校共通教科「情報」における高校生の意識の実態調査

櫻井 陽

本研究で対象とする高等学校共通教科「情報」は、2003年度に設置された。そして、2022年度から高等学校学習指導要領の改訂に伴い、共通必修履修科目として「情報Ⅰ」が設置された。これらの流れを踏まえて、大学入試センターが実施する2025年度大学入学共通テストにおいて、「情報」が採用されることになった。このことについて研究者や高校教員からは賛否両論の意見が挙がっている。否定的な意見として、特に都道府県ごとの格差について懸念が示されているが、実際の高校生がどのような意識を向けているかの調査が少ない。

そこで、大学入学共通テストへの導入が決まった時点において、教科「情報」に対して高校生はどのような意識を持っており、どのような学習を行う実態にあるのかを明らかにすることを本研究の目的とした。

手法として、高校生に向けたオンライン調査を行った。調査項目の設計にあたり「①地域による差・傾向があるか」、「②学年による差があるか」、「③単元による苦手意識の差があるか」の3観点からの研究課題を設定した。対象地域を関東7都県に長野県、新潟県を加えた1都8県に絞り調査を行ったところ、高校1,2,3年生合計約1000人のデータを収集した。

収集したデータを集計し、考察を行った。教科「情報」に対しての不安感は「不安感あり」と回答した高校生の割合が「不安感なし」と回答した高校生の割合よりも高いことが明らかになった。また、文部科学省の調査によると、東京都は情報科担当教員のうち、情報の臨時免許状を保有している教員、情報の免許外教科担任が2023年現在の調査で0人であった。

それを踏まえて都県ごとに教科「情報」についての分析をした結果、東京都が教科「情報」に対する不安感が相対的に低いことが示された。学年ごとに集計すると、高校2年生の割合が他学年よりも高いことが示された。「情報Ⅰ」の単元ごとの不安感について集計を行った結果、「コンピュータとプログラミング」の単元において「不安感あり」と回答した高校生の割合が他単元よりも高いことが明らかになった。大学入学テストへ「情報」が導入されることに対する意識や行動変化は、導入を知らない高校生が全体の19.3%を占めることが示された。また、大学・短期大学志望者のうち「情報」の受験が必要ない大学を選択しようとしている回答者が10.2%いることが明らかになった。自由記述からの考察では、一定数の高校3年生が浪人を避けようとしている事が示された。不安感の内訳としては、情報の学習方法が確立されていないこと、大学入学共通テストの出題形式が明らかではないことが多く挙げられていた。

本研究では調査項目の設計の際に立てた3つの研究課題いずれにおいても、一定の差が生じているという結論が導き出された。

(指導教員 小野 永貴)